

奈良公園観光地域活性化総合特区

[指定：平成25年9月、認定：平成26年6月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値  $(3.3+3.5)/2=3.4$

3.4

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	奈良市の観光入込客数の増加	79%	3
2	奈良市の宿泊者数の増加	83%	4
3	奈良市の観光消費額の増加	77%	3

評価指標毎の進捗の評価の平均値  $(5 \times 0 + 4 \times 1 + 3 \times 2 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 3.3$

3.3

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値  $(3.5+3+4)/3=3.5$

3.5

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.5

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.3

・地域通訳案内士の育成やトイレ整備、鹿苑の整備や春日山原始林における外来種の伐採等の地道な取組を継続する一方で、インバウンドに加え、富裕層をターゲットとした宿泊施設の改修を始めとした攻めの姿勢は評価できる。

・標榜する滞在型観光の推進に当たっては、宿泊を促す朝晩の観光コンテンツの開発やDXの活用による奈良公園のエンタテインメント的な見せ方、SDGsを意識した公園としての体験価値創出など、より積極的にイノベーション的な戦略に基づく取組を期待したい。

・イベントに頼るのではなく、まちそのものの楽しみ、あるいは観光資源の魅力やそれを体験することによって多くの時間を必要とすることこそ真の滞在型観光を実現することにつながる。どのような観光体験を提供し、滞在の長時間化を実現するか、このことを市、地元関係者、民間などと連携しながら進めていただきたい。

・総合特区の規制の特例措置や支援制度を十分に活用できていないように見受けられ、今後の更なる工夫を期待したい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.3

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(3.4+3.5+3.3 \times 2) / 4 = 3.4$

3.4

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。